

日土比較文化考

— 人気ドラマ（2020年前後）の内容分析および視聴者の反応 —

チャナッカレ・オンセキズ・マルト大学

Mariko KIZILAY

1. はじめに

Kızılay（2018）では2011～2012年にかけて放送された恋愛ドラマを中心に当時のトルコの社会的背景を考察した。それから6年を経た2017～2018年、ドラマに変容が見られる。目に見える経済的な上昇をテーマとするドラマから一転して、暗く、目に見えにくい心理的な部分を扱ったドラマ、トラウマを抱えた人物が主役もしくは主要な脇役として登場するドラマが散見されるようになった。

本稿ではアメリカに次ぎ第二のドラマ輸出国トルコ¹⁾のドラマ事情（主に海外輸出の流れ）を概観し、次に主要なドラマの内容分析を行う。最終節で、日本のドラマとの比較考察を行う。

2. トルコドラマの概要

2.1. 海外輸出の流れ

トルコのテレビドラマ輸出は、2001年にカザフスタンに販売された「デリ・ユレッキ」²⁾に始まる。その後、2007年に「ギュムシュ」³⁾が中東諸国とブルガリアに販売されたことで、トルコドラマの中東とバルカン半島への輸出が始まった。「ギュムシュ」は中東諸国で大き

¹⁾ 文化観光大臣メフメット・ヌリ・エルソイの言：Sinema ve Dizi Sektörüne ilk Destekleri Vermeye Başlayacağız. トルコ文化観光省（2019.09）<https://basin.ktb.gov.tr/TR-242973/bakan-ersoy-sinema-ve-dizi-sektorune-ilk-destekleri-ver.html>

²⁾ 1998年10月から2002年6月にかけて放送されたアクションドラマ。第1～第3シーズンはShow TVで第4シーズンはatvで合計113話が放送された。

³⁾ 2005年から2007年にかけてKanalDで放送されたメロドラマ。3シーズン100話からなる。人気俳優Kıvanç Tatlıtuğの初主演作である。海外輸出され、特にアラブ世界で大ヒットとなった。サウジアラビアでは、「ヌール」というタイトルで国営MBCチャンネルで毎日放送され、最後のエピソード放送時には8500万人が視聴したという。「ヌール」の成功は、主要なアラブの衛星放送で吹き替えトルコドラマのブームを引き起こした。MBCは、終日「ヌール」のエピソードが視聴できる専用の有料テレビプラットフォームShowtime Arabiaと提携して、有料テレビチャンネルを立ち上げた。（Jaafar, 2009）

な関心を集め、幅広い視聴者を魅了し、トルコへの観光誘致にも繋がった (Al-Sweel, 2008)。この成功により、中東および北アフリカ諸国 (MENA)⁴⁾ へのトルコドラマの輸出が増加した (Doğanay & Aktaş, 2021 : 861)。

トルコのテレビドラマが MENA 諸国とラテンアメリカの視聴者に賞賛された要因として以下 4 点が挙げられる。Doğanay & Aktaş (2021) を基に要点を述べる。

第一に、文化的な親和性⁵⁾ である。Berg (2017) は、ドラマで演じている俳優の容姿が、欧米人や極東人よりもアラブ人に非常に似ていること、現代のイスラム社会の出来事や社会的関係の類似性 (長老の尊重、家族の絆、婚外交渉の否認など)、生活の類似点 (小さいカップでコーヒーを飲む、真ん中辺りがくびれたチャイグラスで紅茶を飲む、数珠を数えるなど)、表情やボディランゲージの類似性などが、MENA 諸国でトルコドラマ需要において重要な役割を果たしていることを明らかにした。

第二に、東洋と西洋の文化が融合したライフスタイルが描かれている点である。トルコドラマが描くのは現代トルコのイスラム社会であり、MENA 諸国におけるライフスタイル、女性像とは異なる。しかしながら、その東西文化が融合したモダンなライフスタイルを好例として捉え、特にドラマの中で描かれる、社会の中で異なる役割を果たす強い女性像に高い関心が寄せられた⁶⁾。

第三に、ドラマに登場する人気俳優の存在と、豪華な場所、派手な消費生活、贅沢なライフスタイルが強烈に描かれている点である。特に中東諸国で影響が大きいという (Şentürk, Gülçur & Eken, 2017)。

第四に、コンテンツの類似性である。第一から第三要因は、MENA 諸国におけるトルコドラマ需要の主要因とされるが、第四については、上記地域のみならず、ラテンアメリカにおけるトルコドラマ需要の要因として指摘されている。トルコドラマの多くはラテンアメリカの視聴者が慣れ親しんだメロドラマ⁷⁾ である。視聴者は異なる社会・設定における異なったストーリーや複雑で興味そそられる恋愛関係に興味を示すという。

上記の要因に加え、経済的および政治的要因も初期のドラマ輸出の成功に大きな影響を与えた (Yeşil, 2015)。MENA と中央アジアに対する2000年代のトルコの積極的な外交政策は、テレビドラマの輸出増加に重要な役割を果たした。また、パキスタンにおける需要の要因として、トルコドラマの品質の良さと安価さも挙げられる。

⁴⁾ Middle East & North Africa の略。以下、この略称を用いる。

⁵⁾ 文化的親和性理論は Straubhaar (1991) によって提唱された。この理論によれば、視聴者は自分たちの文化や生活に近いと見なすテレビ番組にもっとも興味を持つという。

⁶⁾ アラブ諸国で人気となったトルコドラマ『ギュムシュ』のアラブの人々に対する影響については、Deniz (2010) に詳しい。

⁷⁾ ラテンアメリカを中心に制作、放映されているメロドラマは、スペイン語及びポルトガル語で「テレノベラ」と呼ばれる。テレノベラは、ラテンアメリカの社会で常に見られるお決まりのキャラクターやイベントを複雑で感情的な状況 (悲しみ、鬱、愛、無力、滑稽な状況など) の中で扱うメロドラマである。

オスマン帝国のスレイマン1世をモデルにした歴史ドラマ『オスマン帝国外伝～愛と欲望のハレム～』は世界的にヒットした。MENA、バルカン半島、パキスタン、イランなどのイスラム諸国におけるヒットの要因としては、文化的な類似性が考えられる。一方、非イスラム教国であるラテンアメリカとイタリアにおけるヒットの要因としては、ドラマが純粋な歴史ドラマではなく、本質的にはハーレムの生活を描いており視聴者の好奇心を喚起した (Özmen & Al-Zaid, 2021)。また印象的なトプカピ宮殿で撮影された点も、海外におけるドラマ成功に影響を与えた (Williams, 2013)。

トルコのテレビドラマ業界は2010年代前半に大きな発展を見せ、輸出額が大幅に増加した⁸⁾。輸出先は主に MENA 諸国であり、テレビドラマ総輸出量の65%を占めた (Şentürk, Gülçur & Eken, 2017)。しかし、2010年代後半以降、政治的理由から MENA 諸国の大企業がトルコからテレビドラマ放映権の購入を打ち切ったため (Yeşil, 2015)、MENA 諸国へのテレビドラマの輸出が大幅に減少した。そこで、トルコのテレビドラマ業界は、MENA での輸出の損失を補うために代替市場に目を向けた。特にラテンアメリカへのドラマ輸出は成功し、視聴率を大幅に向上させた。その他、パキスタンやスペイン、ポルトガル、イタリアでも増加している。スペインではラテンアメリカのテレビドラマが支配的であったが、トルコのドラマが取って代わった (Bolelli, 2019)。

2.2. 輸出に悪影響を与える要因

第一に、トルコドラマに含まれる世俗的な内容が挙げられる。例えば MENA の一部では人気ドラマ「ギュムシュ」(アラビア語タイトル「ヌール」)の放送に否定的な反応が示された。ドラマには、家庭内暴力、離婚といったアラブ社会の悪例が含まれており、また主演俳優の容姿や態度が女性視聴者に及ぼす影響など、社会秩序を混乱させると危惧された (Salamandra, 2012)。同様の理由により、イランの一部グループや (Jones, 2013)、ギリシャとマケドニアの過激派ナショナリストのグループがトルコドラマに否定的な態度を示し、放送制限を行う可能性があるという (Yeşil, 2015)。

第二に、ドラマのコンテンツの品質低下、目新しさの欠如である。スペイン、ポルトガル、イタリアといった新規参入国には、海外ですでに人気となったドラマのアーカイブから販売され、いずれも成功している。しかしながら昨今、テレビドラマの評価システムが変更された⁹⁾結果、国内では人気があるが、海外市場では注目度の低いコンテンツが制作され始めた。今後、海外輸出を成功させるためには、トルコ全般に評価され、かつ海外でも評価され得る、

⁸⁾ 当時の外国貿易担当大臣 Zafer Çağlayan が、2010年に39か国に65本のテレビドラマを輸出し、6000万ドルの収益があったと発表した。(Deniz, 2010)

⁹⁾ 高学歴高所得者層からなる被験者グループの比率を下げ、地方の村や貧困層(低学歴低所得者層)からなる被験者グループの比率を上げた。

従来とは異なる新しいアプローチやコンテンツの探求が必要となる (Şentürk, Gülçur & Eken, 2017)。

2.3. 今後の課題

現在、人々は従来のテレビチャンネルよりも OTT プラットフォームでの視聴を好むため、テレビ視聴率は年々低下している (Salih, 2020)。今後は、OTT プラットフォームに適した作品を制作することが重要となる。トルコでは、Netflix、Puhu TV、BluTV などの OTT プラットフォームで1話45～60分で10～12エピソードのミニシリーズを放送しており、今後、増加し続けることが予想される。OTT プラットフォームによる動画配信は、ドラマ輸出をより広範かつ容易に実行可能となる¹⁰⁾。

輸出するためには以下二点が重要となる。第一に、トルコ国内で高い評価を獲得し、さらに、海外においても高く評価され得るコンテンツ (内容、概念、シナリオ) でなければならない。通常、トルコのテレビドラマは広告収入の関係から、1話2時間～2時間半と長い。視聴率が高ければ、エピソード数はそれに伴い増加し、シリーズが長くなるにつれ、元のストーリーから離れていく。結果、コンテンツの品質に悪影響を及ぼし、視聴者の興味も薄れていく。海外の視聴者の好奇心と興味は一定の飽和状態に達したと言われている。Doğanay (2021) は、新しいコンテンツで視聴者の好奇心と関心を高める作品を制作することが今後の課題だと述べる。

第二に、1シーズンを構成し得るエピソード数に達する必要がある (Salih, 2020)。トルコ政府は2019年に「海外に販売し、国の広報に貢献するドラマ」に対して支援すると発表した。条件として、「3大陸の10か国に、少なくとも1シーズン輸出し、申請日から過去2年以内に制作されたもの」と記載されている¹¹⁾。しかしながら、視聴者の OTT プラットフォームへの移行 (テレビ離れ) は、長編ドラマの視聴率低下につながる。Salih (2020) は、テレビ視聴が依然支配的な中東、バルカン半島、ラテンアメリカにおけるトルコのテレビドラマ需要の高まりに注目しているが、これらの国々でもデジタルへの移行が進むと、トルコのテレビドラマ輸出に悪影響が及ぶ可能性がある。

2.4. コンテンツの変容

以上、トルコドラマの海外輸出の流れを概観したが、2017年以降、コンテンツの変容が見られ、コロナ禍の2020年に顕現した感がある。すなわち、心因性精神障害を含むコンテン

¹⁰⁾ MENA 地域へのトルコのテレビドラマ輸出の減少に伴い、同地域にトルコの OTT 企業が進出した (Doğanay & Aktaş, 2021 : 868)。

¹¹⁾ Sinema Sektörünün Desteklenmesi Hakkında Yönetmelik (映画産業支援規則) 官報30919号 (2019年10月15日) 第25条に記載。 <https://www.resmigazete.gov.tr/eskiler/2019/10/20191015-3.htm>

ツが顕著にみられるようになった。

2020年9月4日にTV8で『クルムズ・オダ (赤い部屋)』¹²⁾、翌週、TRT1で『マースムラル・アパートマヌ (罪なき人々のアパート)』が放送開始された。年が明けて2021年2月にFOXで『マースミイェトゥ (イノセンス)』、同年4月にKanalDで『ジャムダキ・クズ (窓辺の娘)』と連綿し、各局が何れも精神障害をコンテンツとするドラマ制作に乗り出した。トルコドラマの続行の可否は視聴率が大きく作用する。以上の流れは視聴者の興味関心を喚起するコンテンツであったことを裏付ける。

海外視聴者にとって初期トルコドラマは、イスタンブールの景観、東西文化の混在したモダンなイスラム社会、非イスラム圏の視聴者にとっては異国情緒等、好奇心をそそられるコンテンツからなっていた。しかし時を経て、トルコ案内、イスタンブール観光案内を兼ねたコンテンツ、また富裕な男子と貧しい女子のシンデレラストーリーは、出し尽くされた印象がある。そこで注目されたテーマが精神障害であったといえる。

トルコの保健大臣は、2017年から2019年の過去3年間に精神障害とうつ病のためにメンタルクリニックに相談した患者数がおよそ800万人¹³⁾ (うち69%が女性) であると発表した。抗うつ薬の使用も急速に増加しているという。この要因として、国に対する絶望感、国の不確実性、社会経済的問題、貧困、抑圧、および非民主的な地理が指摘されている¹⁴⁾。つまり精神障害は現在トルコに潜在する現実的な社会問題のひとつといえる。

世界的には2017年の調査で、全世界の7億9,200万人、10人に1人強 (10.7%) が精神障害を抱えて生活していると推定されている。うつ病、不安神経症、双極性障害、摂食障害、統合失調症など、さまざまな形態が含まれる。治療を受けられない低所得者層などは含まれておらず、実際の数値ははるかに上回ると考えられる¹⁵⁾。

3. 2017～2018年に放送されたトルコドラマ

アズラ・コーヘン原著『フィー』(2013)、『チー』(2014)、『ピー』(2015)をドラマ化した『フィー』(Ay Yapım制作)が、インターネット上のOTTプラットフォームPuhu TV¹⁶⁾で

¹²⁾ ドラマタイトルは初出で原名のカタカナ表記および翻訳可能な場合は和訳名を()内に記した。2回目以降は和訳名を用いた。

¹³⁾ 2019年時点でトルコの総人口は約8320万人である(参照: Türkiye İstatistik Kurumu (TÜİK) 人口統計)。Youtube上の書き込みに、メンタルクリニック医療費が高額であるため断念した等の書き込みが散見されることから、実際の患者数ははるかに上回ると予想される。

¹⁴⁾ ABC Gazetesi (2020/01/30). Türkiye'de antidepresan kullanımı arttı! 3 yılda 8 milyon kişi psikiyatri kliniklerine başvurdu... <https://abcgazetesi.com/turkiyede-antidepresan-kullanimi-artti-3-yilda-8-milyon-kisi-psikiyatri-kliniklerine-76225>

¹⁵⁾ The Institute for Health Metrics and Evaluation (2018), *Global Burden of Disease Study 2017*.

¹⁶⁾ 新世代のオンラインテレビで、何百もの国内の連続ドラマ、国内および受賞歴のある海外の映画を無料で高画質視聴できる。

2017年から2018年にかけて2シーズン放送された。

『フィー』の主役の一人ジャン・マナイは大学で心理学を教える傍ら、自身のテレビ番組でメンタルセラピーを行い、毎回高視聴率を記録する。しかしながら、隠蔽した暗い過去を持つ。ジャンの母親は、汚い公衆トイレでジャンを産み、そのまま置き去りにする。ジャンは10代の頃3年間、精神病院に入り治療を受ける。担当した精神科医の助けで、その後、名を変え、別人物として生まれ変わる。しかし、決して心の傷が癒えることはなく、ダンサーの女性への異様な執着愛を持ってドラマは進行する。強迫性・境界性・自己愛性パーソナリティ障害を抱える人物である。

2018年に放送された『ユワムダキ・ドゥシュマン（私の家の敵）』の主役ジェレンは、不倫相手を事故で失い、ショックで流産する。復讐のため、正体を偽り、事故の加害者の女性宅にベビーシッターとして入り込む。ドラマ中にジェレンの過去の出来事が細切れに差し込まれる。ジェレンは精神障害の母親から拒絶され愛情を受けずに育つ。母親が精神病院に連れていかれた後は、夢と現実の世界を混同し、悲嘆すると自傷行為を行う。終には母親と同様、精神病院に連れていかれる。父親を逆恨みし、恋人を焼きつけ実父を殺害させ、恋人は刑務所に入れられる。その後、ジェレンは既婚男性を誘惑し、男性は病気の妻を捨て別居。後に正体を知られた不倫相手の妻を殺害する。このドラマは、視聴率低迷のため6回で放送打ち切りとなった。

4. 2020～2021年に放送されたトルコドラマ

2020年は世界的にコロナウイルスが蔓延し、経済が停滞する中、多くの人々が辛い不自由な生活を強いられた。そういった状況下、精神科医ギェルセレン・ブーダユジョール¹⁷⁾(2004)に基づくドラマが2作、2020年9月から放送開始となった。『赤い部屋』と『罪なき人々のアパート』である¹⁸⁾。いずれも毎回高視聴率を獲得し、2020年9月のドラマ視聴率ランキングでは前者が7位に、後者が5位にランクインしている。

4.1. 『赤い部屋』(2020～)

ドラマの冒頭で、世界のいかなる国も暴力を法律と重罪によって防止できずにきたこと、子供時代に習得された暴力は時とともに習慣化されること、身体的または心理的暴力(身近な人間による侮辱、軽蔑、蔑み、嫌悪など)を受けたり、あるいは暴力を目撃したりしたほとんどの人が、後に他人に暴力を振るうか、或いは暴力を振るう人を自らの人生に引きこむ、とのナレーションが流れる。

¹⁷⁾ 精神科医、作家。2005年、トルコ初の精神科センター「メダリオン精神科センター」をアンカラに設立。

¹⁸⁾ 両ドラマとも2021年11月現在、第2シーズン放送中である。

『赤い部屋』は、メンタルクリニックを訪れる患者が語る過去から現在に至るまでの話により綴られていく。精神科医の経験と実際に行ったセッションを元に著されたブーダユジオール（2004）¹⁹⁾が脚本化されたものである。主な登場人物はクリニックの所有者である主役の精神科医と、三人の勤務医²⁰⁾、そして彼らの元を訪れる数々のクライアント（来談者）たちとその家族である。主に、トラウマに焦点を当てた認知行動療法、持続エクスポージャー療法²¹⁾により、クライアントが過去の忌まわしき経験、封じ込めてきた思い、無意識の領域を本人が再現し自己確認していくことによりセッションは進められていく。主役女医の「私は決してあなたを非難したり、審判したりはしない」という言葉が印象に残る。

『赤い部屋』の来談者は過去を恥ずべき人生の汚点として封印し生きてきた。しかし過去の鎖は断ち切れず縛られたままであり、あることがきっかけで再現する。親から愛情を受けずに育った人は、自分が親の立場になっても、自分は愛される存在ではないとの思いが強く、妻子の愛情を信じることができず、懐疑的、嫉妬の鬼と化す。自分の存在を恥じ、難癖をつけてはどなる。暴力を振るう父親の元で育った男性は、自分が親になると、連鎖の如く、父から学んだ父・息子関係を自分の息子にも適用し、子を蔑ろにし、貶し、暴力を振るう。生まれたときから、母親に無視され、父親にも疎まれて育った女性は人とどのように話し、接すればいいのかわからない。有名大学の法学部を主席で卒業するが、ただ人と関係を持ちたいがために、金と引き換えに男を買う。男に殴られても仕方がないと暴力を受け入れる。

痛み、屈辱、抑圧に慣れ親しんできた人は、無意識に同じ環境を探し求め、暴力に慣れ親しんできた人は、いつしかまた、暴力を振るう者を自らの人生に引き込む、と担当医は述べる。子どもの頃に肉親に死に別れた子供は、死という現実を、置き去りにされたと捉え、その後の人生でも、常に置き去りにされるのではないかという恐れを抱く。いわゆるトラウマと呼ばれる心的外傷の一例である。

人はその外見から、あるいはその人の行為から往々にして偏見を持ちがちである。しかしながら、日常生活で奇怪な言動をとる人が、実はさまざまな過去の鎖を引きずり、トラウマを抱えている可能性があること、その人の負っている封印された過去を理解し、共感することで、心の傷も治癒可能であること、精神障害を負った人にその心の傷の根に目を向けさせ、自尊心を持たせることが如何に重要であるかをこのドラマは教示しており、一般のドラマとは一線を画する、類まれな社会ドラマといえる。

¹⁹⁾ 副題に「精神科医のノートから」とある通り、実話に基づく。

²⁰⁾ いずれも後のエピソードでドラマから離れる。

²¹⁾ 安全な治療の中でトラウマへの記憶を思い出させ、トラウマの恐怖に慣れさせるとともに、思い出しても危険がないことや、言葉にすることによってトラウマを乗り越えられることを学習する治療法である。持続エクスポージャー療法で治療した場合、多くは3カ月程度の治療で回復し、その後、再発する場合は少ないという。

このドラマでは、主に精神障害のひとつ、心的外傷後ストレス障害（PTSD）²²⁾の患者が取り上げられている。いずれも、自身が性的暴力、家庭内暴力（DV）、児童虐待（性的虐待）の被害者、あるいは父親が殺害され、母親が性暴力を受ける、母親が自害するのを目撃するといった強烈な恐怖体験者である。

4.2. 『罪なき人々のアパート』（2020～）

原作はブーダエジオール（2004）の「ごみ屋敷」と名付けられた一話であるが、ドラマでは『罪なき人々のアパート』と改名されている。強迫性障害、行動障害を抱える4人のきょうだいが登場する。彼らの母親は後妻で、先妻と先妻の間に生まれた息子は事故死している。再婚後も父親は亡き先妻と息子を愛し続け、母親には愛情を向けなかった。母親は夫に対する憎しみと怒りの代償を子どもたちに負わせ虐待（主に心理的虐待）した。

長女サフィエは、男子を望んでいた父親が、生まれる子が女であることを知ると中絶を望み、自分が望まれずに生まれた子であると母親から告げられる。性（セクシュアリティ）に異常な拒否反応を示す母親は、サフィエが初潮を迎えると「汚れ」と見なし罵る。またサフィエが恋人と一緒にいることを目撃した後、大学進学も断念させる。自分のせいで恋人が死んだと母に信じ込まされ、母が心臓発作を起こし下半身麻痺になるとお前のせいでこうなった「不幸もの」と母から詰られ、自らを責め続けて生きてきた。

サフィエは育児放棄した母に代わり下の姉弟の面倒を見た。母が亡き後は、不潔恐怖・洗淨強迫の母が乗り移ったかの如く、無意識のうちに同じ言動をとる。外出はおろか、窓も開けられず、食材、衣類、あらゆるものを洗淨剤で繰り返し洗う。「愛情」「性」を汚らわしいもの、恥ずべきものと忌避する母親の影響を受けたサフィエのあらゆるものを洗淨する行為は、「性」「愛情」につながる、自らの汚れた魂を清める代替作業に他ならなかった。外界は汚れているとの認識から家族以外の誰も決して家の中には入れない。彼女は母親が亡き後も母の亡霊と共に生き、常に母親の視点から物事を判断する。そして母親に受けた負の代償を、すぐ下の妹に負わせ、自らが母から受けた「不幸もの」「無能」といった暴言の数々を妹に浴びせる。

次女ギュルベンは母親代わりをしてくれた姉サフィエに恩恵を感じており決して抗わない。母親と姉の影響で彼女も強迫性障害（不潔恐怖・洗淨強迫）で、抑圧され続けた影響で30半ばになっても子供の時以来の夜尿症に苦しんでいる。また恐怖やストレスを感じると失禁する。その度に姉の侮蔑の声が高まり、ますます萎縮する。汚れたシーツは捨てられず、ゴミ袋に入れ、上階の使われていないアパートに放り込む。そのゴミ袋の山は増え続け、悪

²²⁾ Post Traumatic Stress Disorder の略。災害や事故、犯罪、戦争などの強烈な非日常体験、DV や児童虐待などの近親者を主とする人間関係内における傷害体験など、人の対応能力を超えた強い衝撃的な体験が心に傷を残し引き起こされる精神障害のことをいう。

臭を放っている²³⁾。母親生存時に見かねた父親が泌尿器科に連れて行こうとしたが、他人の目を気にする母親が猛反対したため、それ以降、何の治療も受けられぬまま今日に至っている。

二人の姉の影響下にある末の妹も、精神的負担から一人になると自分の身体を赤く腫れあがるまで掻きむしり自傷行為を繰り返す。

原作にはないキャラクターがドラマでは登場する。三姉妹であったところに、唯一の男子ハーンを登場させる。実業家として成功し、日常生活を普通に送っているかのように見えるが、実は、二人の姉の言動に精神的負担を感じている。大切にしていた玩具やスケッチブックを母親に引き裂かれゴミ箱に捨てられたことがトラウマとなり、ゴミ収集癖という強迫性精神症の一種を患っている。亡き母親は男児を出産したにもかかわらず夫の愛情が自分に向かない憤りを罪のないこの息子にぶつけ、「ばい菌」と罵った。9歳で家を離れ寮生活を余儀なくされる。このハーンがインジと出会い、愛に目覚めることで、外界との接触を拒んできた家族に息吹が吹き込まれていく。

トルコドラマは、恋愛を盛り込まないことには視聴率が上がらないとの揶揄もあるが、こうしたテーマを書物に留めず、お茶の間にまで届ける誘引力となったとの見方もできよう。また原作にはない人物を登場させることにより、閉ざされた家族と外界との橋渡し役を担わせたとも解釈できる。インジの祖父は、最初は奇異な言動をとるサフィエを偏見の目で見ていたが、次第に内面を垣間見ることにより理解を示すようになる。

彼らきょうだいは、母親からの影響を多大に受け今日に到っているが、その母親自身も母親から愛情を受けずに育った。母方の祖母は一男四女を授かったが、息子のみを溺愛し、娘たちを蔑ろにした。人は気づかぬまま、断ち切れぬ鎖を引きずったまま自らの運命を子へと引き継いでいく。それに気づき、鎖を断ち切るために行動を起こすことができるか、視聴者、特に子育て中の人々にとっては自らの子どもとの関係を省みるきっかけとなり得るドラマといえよう。

4.2.1. 視聴者の反応

トルコのドラマは放送数時間後には、インターネット上で公開される。2020年9月15日に第1話が放送された『罪なき人々のアパート』は、YouTube上にドラマ名でチャンネルが設置され、2021年11月8日時点でチャンネル登録者数は114万人²⁴⁾、放送された第1シーズン計37話の視聴回数は、第1話1811万回、第2話1399万回、第3話1166万回、その後は1000万回を超えないものの高視聴率を保ち、チャンネル累計視聴回数は9億886万回となっている。

²³⁾ トルコでも「ゴミ屋敷」が問題となっている。悪臭等から周辺住民が警察に通報し、ニュースでも度々取り上げられている。清掃局の業務報告にも、「ゴミ屋敷」の清掃・消毒が記載されている。(イスタンブール県ユスキュダル自治体清掃局「清掃業務」<https://www.uskudar.bel.tr/tr/main/mudurlukler/news/temizlik-i%C5%9Fleri-mudurlugu/23>)

²⁴⁾ 登録者数、視聴回数については、万未満を四捨五入、コメント件数は百未満を四捨五入した。

また注目すべきは、視聴者のコメント数である。コメントの最高件数は第1話の2万700件、第2位は第2話の1万8000件、第3位は第37話（第1シーズン最終話）の1万7400件で、その他のエピソードでも最少6400件となっており、視聴者の関心の高さが反映されている。以下の節では、YouTube上の視聴者の書き込み（原文はトルコ語、引用の際、筆者が和訳）を分類して取り上げる。

4.2.2. 多くの高評価がついた書き込み

- ・耳の不自由な視聴者が字幕を望む書き込みには8800件の高評価がつき、同様の障害を抱えた人々の書き込みも目立つ。最終的には制作者側が第1話の視覚的な説明、手話、字幕オプションへのインターネット上のリンク案内、および他のエピソードへの字幕追加作業に取り組んでいる旨の返信が書き込まれている。
- ・登場人物たちが治療のため他局のドラマ『赤い部屋』を早急に訪れることを望む声²⁵⁾（1200件の高評価）
- ・『赤い部屋』『罪なき人々のアパート』の登場で、トルコのドラマが発展しつつある。（5800件の高評価）
- ・ようやく金持ちで筋肉質、卑劣な男性と貧しくて愚かな女性、その親友たちと複雑な恋愛関係などとは異なるドラマが登場した。（3700件の高評価）
- ・ようやく海外からのリメイク作品ではなく、他国へ輸出できるレベルの高い作品が出た。（1800件の高評価）
- ・登場人物たちが、化粧をし、高価な衣装で着飾った、モデルのようなスリムな女優や、筋肉質の男優ではなく、より現実的で身近な存在と感じる。（1700件の高評価）
同様に、これまでのトルコドラマに食傷している以下のようなコメントが散見した。
- ・これまでの多くのトルコドラマの不自然さ、完璧さの押し付け、決まり文句にうんざりしていた。
- ・トルコドラマでお決まりの、マフィア、暴力、ファンタジーのないドラマ。それぞれの人々の異なる人生を描いた印象的な良いドラマ。

4.2.3. 視聴者へのメッセージを綴る書き込み

- ・親は子が大きくなれば忘れると言うが、子供たちは経験したトラウマを決して忘れることはない。自分の経験から断言する。このような悪しき経験をした子供たちは決して正常な人間とはなり得ない。子どもたちを愛してください。子どもたちが恐れずに人を愛せるように。そして人を信じられるように。（高評価33）

²⁵⁾ 後のエピソードで実際、ギュルベンが『赤い部屋』を訪れる。トルコではドラマの登場人物が同時期に放送中の別のドラマに、その役柄のままゲスト出演することは珍しくない。

- ・お父さん、お母さん、子どもたちを傷つけないでください。あなた方の過ちのせいで私たち子どもたちが苦しめられています。どうして、ごく普通の家族になることを拒むのですか。このドラマが親への教訓となりますように。(高評価16)

4.2.4. 視聴者が理解したこと、視聴後の感想（『赤い部屋』への書き込みも含む）

- ・子供時代の愛情と関心の欠如が一生涯でいかに大きな影響を及ぼすかということ。(高評価463)
- ・子どもは親の育て方に大きく影響される。自分自身を内省し、強い精神をもって子育てをしなければならない。成長した子供たちがいずれ自分たちの社会を作っていくのであり、自分たちの責任は大きい。
- ・自分の置かれている状況に感謝。(高評価133)
- ・私の人生で最大の幸運は家族だと思う。(高評価159)
- ・ドラマ中の精神科医のセリフは、実際のセッションで視聴者が自ら経験したものと類似している。自分に合う精神科医に出会うことは実際には難しく、また医療費負担等の経済的問題から精神科医にかかることが難しい人々にとっては、『赤い部屋』を通して、精神科での治療がどのようなものであるかを知り、実際のセッションを仮体験しているような効果がある。
- ・子は親を選べないが、親は子を持つことを選ぶ。自分が選びこの世に連れてきた子どもたちを、ただ自分が不幸であるという理由で困難な状況に陥れる。なんと嘆かわしいことか。
- ・ある人が苦痛から正気を失った時、他人は彼の苦痛は目にせず、ただその狂気だけを見る。(高評価430)
- ・気がふれた人に対して狂人と呼ぶのは恥ずべきことである。そのような状態になるまで、その人が何を体験し、失望し、傷ついたか私たちは知らない。分別なく人を裁くべきではない。(高評価309)

4.2.5. 視聴者を引き付けた要因

- ・俳優陣の高い演技力
- ・サフィエの行為は、コロナ禍初期で人々がとった行為に共通するもの(高評価187)。
- ・着飾った衣装、化粧をしたモデルの如きスリムな容姿、あるいは筋肉質の役者ではなく、等身大の親近感のある人物が登場したこと。
- ・恋愛や不倫ではなく、より価値ある感情を描いており共感を呼ぶであろう。精神を病んでいる人々に対して偏見ではなく、少なくとも理解しようとするきっかけとなる可能性があるドラマである。(高評価105)

4.3. 『ドードウンエブ カデリンディル (生家があなたの運命)』 (2019 ~ 2021)

ブーダユジオール (2019) に収められた短いエピソードを元に改作脚色されたドラマである。2019年12月から2021年5月までTV8で2シーズン計48話が放送された。主人公ゼイネップは幼少時に母親が掃除婦として勤めていた富裕層の婦人に気に入られ養子となり、恵まれた環境で何の不自由もなく成長する。一方で、実の親の困窮した暮らしと自分の暮らしを比べ、常に良心の呵責にかられる。実母は時の経過とともに、実の娘に対して愛情よりも妬みを強く持ち、実の親を蔑ろにしてきたと罪の意識を植え付けていく。大学最後の誕生日を機に生母の押しに負け、生まれ育った地区の自動車修理工の男性と電撃結婚する。しかし、この結婚は養母の期待を裏切るものであり、再び罪悪感に苛まれることになる。自分が一体、何者で、どの家に所属するのか疑問に感じ、自分の真の居場所 (うち) を見出せずにいる。

結婚したものの、相手メフディは愛情深いが独占欲が強く、怒りを制御できない人物であった。仕事に行かせないために家に監禁したり、社用車のフロントガラスを叩き割ったりする。離婚後も、ゼイネップを付け回し、遂には誘拐し逮捕される。しかしその根源に、母親から全く愛情を受けずに育ったこと、ただ母親の関心を惹くためだけに自傷行為や物を壊す行為を繰り返してきた過去が姉の口から語られる (ep.26)。彼自身も問いかける「母親に愛されなかった男が赤の他人の娘に愛されるだろうか」と。

4.4. 『窓辺の娘』 (2021 ~)

2021年4月、精神科医ブーダユジオール (2019) に基づく新しいドラマが KanalD で始まった。第1話冒頭で、外出前に特別なショーツ2枚を重ね着させられ、その上から上体をコルセットで締め付けられる浴室シーンが映し出される。外出中はトイレに行くこともできず、水分は極力取らない。仕事から帰ると、急ぎ、家政婦の手を借り、コルセットの紐を緩め、トイレに駆け込む。外出中は母親がスマホで追跡しており、すべての行動がコントロールされている。何故このような異様な様相を呈するようになったのか。事の発端は主役のナランの出生前に遡らねばならない。ナランの祖父母は富裕層の出身である。結婚後、なかなか子宝に恵まれず、祖母が40歳にして初めて授かった子が、ナランの母セマであった。祖父は知事で転勤を余儀なくされる。祖母は娘の教育環境を重視し首都に留まり、祖父は単身赴任、週末に戻るという生活を続ける。そんな折、祖母の弟が寄宿するようになる。この弟が当時、中学生であった娘セマに性暴力を振るい、ナランを身籠らせる。誰にも打ち明けられぬまま、月日が経ち、祖母が気付いた時には、すでに中絶するには手遅れだった。こうしてナランが出生するが、セマは出産時に息を引き取る。引き取り手のないナランは病院で20日ほど取り残される。

貞操を守らせるため、着脱すればすぐに判別可能となるコルセットで上半身を締め付ける (原著にはこういった記述はない。ただ厳格な母との記述のみ)。性的虐待を受け、死に追い

やられた娘の二の舞を孫娘には踏ませてはならぬとの思いからであった。しかしながら、肉親に性的暴力を受けた娘の生んだ子に、児童虐待をする祖母（真実を隠し母親としてナランを育てる）という一種異様なドラマであることは確かであろう。それは孫娘を守るためというよりもむしろ、実の娘を守れず、実弟の餌食にしてしまった自らへの憤りを孫娘にぶつけているに外ならず、正常な愛情とは逸脱したものであった。

前3ドラマのヒットを受けて、他局もランキングに食い込もうと乗り出してきたのが本ドラマである。前作に続き、本作でも「実話に基づく」との書き出しで始まるが、内実は、ドラマ用に脚色改作されたものである。そして、女性、児童への暴力シーンが映し出される。祖母がナランを産婦人科に連れていき、処女検査をさせるシーン（原著にはなくドラマで追加されたもの）は児童虐待に相当すると批判の声が上がった。家族団欒の間で見られるドラマでは決してない。視聴者の書き込みには「女性が拷問を受けないドラマがあればいいのに…」「こういったドラマの視聴者の精神状態はどうか」「社会の道徳的価値観が破壊される」といったものが見られる。

虐待シーンが描かれる一連のドラマとは裏腹に、ケマル・スナル²⁶⁾（1944-2000）の映画が今も色あせず、人々の間で称賛され続ける所以がここにある。テレビ、映画の役割、あり方が改めて問われる。

しかしこういった批判の声が上がる一方で、ドラマで描かれる虐待、暴力の数々はトルコの現実であり、むしろ膠着状態となっており、その現実を直視せねばならないとの声もある。

4.5. 『イノセンス』（2021）

2021年2月～5月にかけてFOXで放送された。19歳の女子大生（以下「娘」と称する）が父親の上司（ホールディングス社長の息子、35歳）と関係を持ち身籠る。しかしこの男には婚約者がおり、結婚前日に娘と口論の挙句、暴行し重傷を負わせる。男が立ち去った後、不倫相手と密会のため現場に居合わせた男の父親が重傷の娘を車に乗せ路上に遺棄する。事件後、男の母親は罪を隠蔽しようとSNSで人々の同情を買う策略で男に虚偽釈明をさせ、また金の力で事件を丸め込もうとする。男自身も娘の心理操作をすることで罪を逃れようと

²⁶⁾ トルコの俳優、プロデューサー、脚本家である。主にコメディ映画（社会風刺を含む）を中心に82本の映画に出演した。純粋で善良なために付け込まれるも、常に不正に立ち向かい、機知により悪を倒し、人々に正しい道を示しつつも、決して笑顔を絶やさぬ役を演じた。その人気は廃れることなく、今も人々の間で視聴され続けている。彼の映画では、値上げ、詐欺師、経済的困難、失業、移民、因習といった、当時の社会、経済問題や政治状況が取り上げられ、コメディの中でユーモラスな表現で批判され、社会的メッセージが込められた。教師、警備員、用務員、ゴミ収集員といった様々な役を演じ、視聴者には「自分たちの中の一人」というイメージを与え、高い評価を得た。（参照資料：ケマル・スナル没後直後の各紙報道記事「笑いの王者はもういない」、「泣かせるのはあなたの仕事ではなかった」（2000年7月4日 Milliyet 新聞）、「シャーバン あなたはすばらしい」2000年7月6日 Milliyet 新聞、「Bu iş tamam tutun Kemal」2000年7月5日 Milliyet 新聞付録「Milliyet 2000」、「あなたは私たちを初めて泣かせた」2000年7月4日 Hürriyet 新聞、「ケマル・スナルが今度は泣かせた」2000年7月4日 Cumhuriyet 新聞）

するが、男の婚約者の父親により次々と罪が暴かれていく。以上が粗筋であるが、この男が父親から「強い男にするための躰」と称した過酷な児童虐待を受けて育ったこと、また父親自身も自らの父親から同様の「躰」を受けて育った過去のシーンが11話に挿入されており、男の母親が「お前には罪はない、裁かれるべきなのは母親である私と父親だ」と男に語る。つまり、このドラマでも親からの負の鎖の影響で子がいかなる末路を辿ることになるかが暗示されている。さらに、このドラマでは昨今の社会問題の一つ、SNSにおける誹謗中傷が、事件の加害者ではなく被害者を集団で追い込む状況も描かれている。

4.6. 『エートス』(2020)

2020年11月にNetflixで放送開始されたドラマで、イスタンブールを舞台に、トルコ社会の多様性を映し出す。全く異なる社会文化的背景を持つ登場人物が主人公を通じて何らかの形で繋がっている。このドラマの中にも精神障害者や精神科医が登場する。主人公は敬虔なイスラム教徒としての純潔性との葛藤から、結婚に繋がる事物を見ると失神するという転換性障害を患っている。また、彼女の兄の妻(義姉)は性的虐待に遭ったトラウマから、心的外傷後ストレス障害を患っており、自傷行為や自殺企図を繰り返す。彼女の幼い息子は母親の影響から心因性発声障害を患っている。その後、義姉は過去のトラウマの原点に対峙することで心の傷を癒し回復していく。

このドラマは非常に人気を博したが批判的な意見も数多く出た。どの医学分野よりも患者(クライアント)に共感し、彼らの精神世界を理解しなければならない精神科医が、政治的、文化的な偏見をもった目で患者を診ること(ドラマではスカーフを被った主人公の担当精神科医の言動)、またライフスタイルやイデオロギーの二極化の問題を医療の現場に持ち込むことはそもそもあり得ないといった精神科医からの批判の声もあがった(Torun, 2020)。

5. 日本のドラマとの比較

5.1. ドラマの中の女性像

2020年タイムシフト視聴率ランキングのトップ10のドラマ²⁷⁾に登場する主役、もしくは準主役の女性はいずれも仕事(製薬会社のMR、看護師、刑事、脳外科医、薬剤師といった専門職が多い)をもち、経済的に自立した女性である。しかし、トルコのドラマでは女性の人生は結婚次第であり、仕事をもって自立して生きる女性像が描かれることは少ない。顕著な

²⁷⁾ ビデオリサーチ、2020年(1月1日から12月31日)におけるテレビ番組のタイムシフト視聴率(世帯・関東地区)に典拠する。1位『半沢直樹』、2位『テセウスの船』、3位『私の家政婦ナギサさん』、4位『恋はつづくよどこまでも』『MIU404』、6位『おカネの切れ目が恋のはじまり』、7位『教場』『絶対零度・未然犯罪潜入捜査』、9位『トップナイフ・天才脳外科医の条件』『アンサンブル・シンデレラ病院薬剤師の処方箋』『BG・身辺警護人』『危険なビーナス』

例として、日本のドラマ『Woman』と、そのリメイクドラマ『カドゥン』が挙げられる。原作では一貫してシングルマザーの生き様がテーマとなっていたが、リメイク版では、二人のシングルマザーが共に、新たな伴侶を得て結婚にゴールインするところで終わる。トルコでは、シングルマザーを貫く生き方よりも、新たな伴侶とともに、再出発するという生き様のほうに視聴者がより共感することを反映した結果であろう。実際、トルコでは、結婚式で幕を閉じるドラマが多い。「幸せ＝結婚」という構図が出来上がっており、日本のドラマのように、女性の多様な生き様を描くドラマは少ない。

トルコのドラマでは、医療ドラマを除き、仕事の現場がリアルに描かれることは少ない。会社経営者という設定はあっても、何を行う、どんな会社であるかは重視されない。富裕層の証明として「会社オーナー」という肩書が使用されるにすぎない。映し出される会社のシーンは立派な建物と社長室、ボディコンの秘書で事足りる。また女性の職業としても貧困層の象徴の如く、富裕層で掃除婦として働く女性が描かれる。女性と仕事という観点からも『赤い部屋』は特筆に値する。ドラマの添え物としてではなく、主役精神科医を筆頭に、勤務医、受付女性等、働く女性の姿が映し出されている。

MENA 諸国を中心に人気を誇った『ギュムシュ』は、その「強い女性像」が賞賛されたが、オヤ²⁸⁾の才能を認められキャリア人生を踏み出しはするが、夫、家族の庇護のもとにあることに変わらず、経済的・精神的に自立した存在では決してない。一方、日本のドラマには、仕事社会の中で強く生きる『ハケンの品格』²⁹⁾ (2007・2021年、日本テレビ)の大前春子や、『Around40～注文の多いオンナたち～』(2008年、TBS)の聡子(精神科医)、『BOSS』(2009、フジテレビ)の大澤絵里子(警視庁・捜査一課特別犯罪対策室のボス)のように、男性をも引っ張っていく精明強幹な女性像が登場するが、トルコドラマにはあまり見られない。

5.2. 精神障害を扱った日本のドラマ

障害を扱った日本のドラマ(1990年以降)を種類別、年代別に数値化した(表1)。そのデータを基に、単発ドラマを含む全ドラマを対象にグラフ化したのが図1である。その結果、30%が「身体障害」、28%が「知的障害、発達障害、認知症」であり、これらが全体の58%を占める。次いで、サスペンス・ドラマ(サイコサスペンスを含む)で取り上げられることが多い「多重人格」、「ストーカー」に「性同一性障害」を加えたドラマが全体の20%を占めている。PTSDを含む不安障害を取り上げたものは全体の11%であった。図2は、連続ドラマに限定してグラフ化したものである。「身体障害」「知的障害、発達障害、認知症」を扱ったドラマが56%、「多重人格、ストーカー、性同一性障害」が22%、以上の障害を扱ったドラマが全体の78%を占める。不安障害を扱ったドラマの割合は若干増え全体の15%であった。

²⁸⁾ トルコの伝統的な手芸のひとつで、縁飾りの総称。

²⁹⁾ 非正規雇用の拡大および、派遣社員が不当な扱いを受けていた時代を反映したドラマ。

表 1 障害を扱ったドラマの種類別、年代別数値 (本数)

種類	身体障害				精神障害								
	聴覚障害	視覚障害	肢体不自由	言語障害	知的障害	発達障害	認知症	多重人格	性同一性障害	人格障害	不安障害	依存症	気分障害
症例						自閉症 ダウン症	若年性アルツハイマー			ストーカー 境界性 演技性	PTSD 神経症 強迫症	アルコール 買い物 依存	鬱
1990-1999	9 (5)	4 (2)	4 (4)	1 (1)	6 (4)	2 (2)	3 (1)	5 (3)	0 (0)	7 (7)	7 (6)	4 (3)	1 (0)
2000-2009	7 (4)	5 (5)	4 (3)	1 (0)	6 (4)	7 (5)	3 (1)	6 (3)	6 (4)		4 (4)	3 (0)	2 (1)
2010-2019	3 (2)	1 (0)	2 (2)		1 (0)	6 (2)	6 (2)	1 (0)	2 (2)	1 (1)	4 (2)	2 (1)	2 (1)
2020-2021	1 (0)	1 (0)									1 (1)		1 (0)
小計	20 (11)	11 (7)	10 (9)	2 (1)	13 (8)	15 (9)	12 (4)	12 (6)	8 (6)	8 (8)	16 (13)	9 (4)	6 (2)
合計	43 (28)				40 (21)				28 (20)			16 (13)	15 (6)

- ・テレビドラマデータベース (<http://www.tvdrama-db.com>) を基に種類別、年代別に数値化した。また萩原 (2011) のリストも参照した。
- ・数値は連続および単発ドラマの合計本数。() 内は連続ドラマの本数で内数。
- ・主人公もしくは物語のキーパーソンが障害者であるもの、国内で制作されたものに限定した。
- ・連続ドラマ中の一話でのみ取り上げられた場合は、単発ドラマ扱いとした。
- ・用語、分類は世界保健機関の「ICD-10 精神および行動の障害—臨床記述と診断ガイドライン」を参照した。
- ・種類はドラマで取り上げられたもののみ表示した。
- ・複数の障害を扱っている場合には取り扱い件数の多い種類一箇所にのみ分類した。

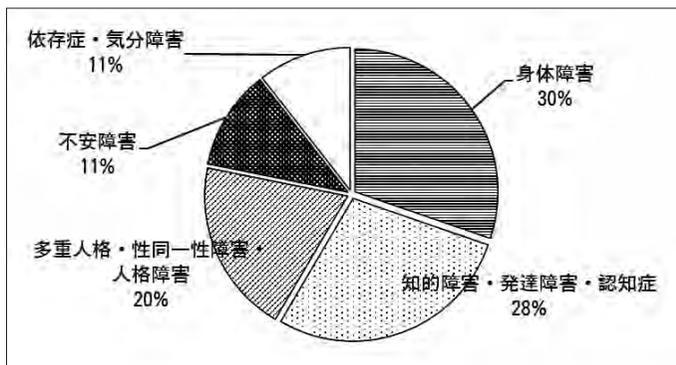


図 1 障害を扱った全ドラマの種類別割合

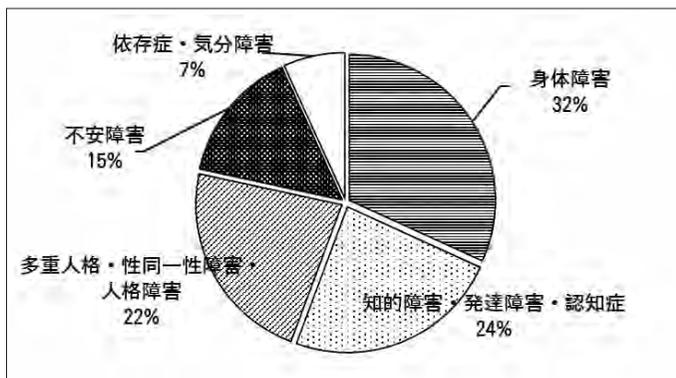


図 2 障害を扱った連続ドラマの種類別割合

日本では聴覚障害を筆頭に、各種障害を扱ったドラマが制作されている。1990年代、2000年代にはそれぞれ50本以上の障害を扱ったドラマが制作されたが、2010年代には単発ドラマを含め31本となり、本数が減少している。特に身体障害を扱ったドラマの減少が顕著である。また「ストーカー」を扱ったドラマは2000年以降、制作されていない。2010年代に前年代より本数が増加しているのは「認知症」のみである。

次に不安障害を扱ったドラマを概観する。以下の医療ドラマでは複数の精神障害が取り上げられた。『心療内科医・涼子』（1997年、読売テレビ）では、児童虐待（精神的）が原因の心因性精神障害や、肉親からの性的虐待、児童虐待（精神的）が原因の境界性人格障害が、『サイコドクター』（2002年、日本テレビ）では、高所恐怖症、過食症、セックス依存症、鬱、PTSD、強迫性障害などが、『Dr. 伊良部一郎』（2011年、テレビ朝日）では、強迫神経症、尖端恐怖症、視線恐怖症などが取り上げられた。

『永遠の仔』（2000年、日本テレビ）は、児童虐待などの家庭的な問題から児童養護施設で育った3人の主人公が、弁護士、警察官、看護師となって再会し、それぞれが過去のトラウマに苦悩しながら、徐々に助け合い生きていこうとするドラマであったが、閉じられた世界の中で絶望的に生きる登場人物の姿が重苦しく描かれる。児童虐待を受けた3人の子どもが出会った場所が、小児総合病院の精神科という設定であるが、1年間をそこで過ごしたにもかかわらず、彼らの心の傷を真に理解し治癒していくプロセスがほとんど描かれず、精神科あるいは精神科医の非力さが暗示されている。PTSDが慢性化する要因でもっとも重要なのは、トラウマ体験後のサポートであるといわれるが、専門の精神科が全く機能していない。また、最終話で優希の母親が、父親を突き落としたのが自分自身であったこと、夫が娘に性的虐待を繰り返していたことを知りつつ何もできなかったこと、そして優希には何の非もなかったことを告白するが、その間17年もの長い歳月が過ぎていた。

精神科に入院する子どもたちが奇声を発することから、本名ではなく、動物園の動物に準えて、タバコを押し付けられ、体中に無数の火傷の跡がある子供をジラフ（キリン）、母親が毎夜、男を連れ込み、行き場がなく押し入れで声を凝らしていた子どもをモール（もぐら）と呼ぶことにも疑問を覚える。

野島伸司脚本ドラマ『人間・失格～たとえばぼくが死んだら』³⁰⁾（1994年、TBS）、『明日、ママがいない』³¹⁾（2014年、日本テレビ）を視聴した、いじめ経験者が、フラッシュバック³²⁾

³⁰⁾ 前編の話（第1話から第6話まで）にかなり過激なイジメや体罰描写があり、倫理的・道徳的にタブーとされる話題を数多く扱ったことから、「過激で興味本位な内容である」という視聴者からの批判が多かったという。

³¹⁾ 児童虐待などの理由で親と離れた子どもたちが暮らす児童養護施設が舞台。初回放送後、慈恵病院が養護施設の描き方について「現実と懸け離れたシーンが多すぎ、誤解や偏見、差別を与える」として、番組の放送中止や内容の再検討などを求めた。（http://jikei-hp.or.jp/tv_mama/）

³²⁾ 強いトラウマ体験（心的外傷）を受けた場合に、後になってその記憶が、突然かつ非常に鮮明に思い出されたり、同様に夢に見たりする現象。心的外傷後ストレス障害（PTSD）や急性ストレス障害に顕著である。

を起こし「過呼吸症候群」に陥った、というケースが報告され問題となった³³⁾。

トラウマの経験者・当事者が視聴後どのような思いを抱くかという点も、ドラマ制作者側は考慮する必要がある。ドラマで取り上げるならば、トラウマの要因となった虐待場面やその後の慢性化したトラウマにのみ焦点を当てるのではなく、トラウマ後のサポート、治療過程にまで踏み込んで描いてこそ、当事者・経験者には何らかの救いとなる可能性があり、その他大勢の視聴者には身近にも起こり得る問題として理解し共感するきっかけ提供という一役をドラマも担うことができるのではなかろうか。この観点からも、トルコドラマ『赤い部屋』は今後のドラマの在り方に一石を投じるものと考えられる。

日本でも2020年に『心の傷を癒すということ』（全4話）が放送された。阪神・淡路大震災から25年を機にNHK大阪放送局により制作されたもので、自ら被災しながらも被災者の心のケアに努めた精神科医・安克昌の実話を基に、妻や被災者との「心の絆」が描かれた。本格的にPTSD問題を取り上げたドラマとして注目される。

6. 結語

トルコでは、精神障害をもつ人物が登場するドラマが実に数多く存在する。逆に、これはトルコ社会で心の病を抱えた人が少なくないことを反映した結果ともいえる。また、ドラマ制作者側は視聴者の好奇心と興味をひく、新しいコンテンツ、オリジナリティを必要としていた。そこで注目されたのが心因性の精神障害というコンテンツであったと考えられる。

日本のドラマ『Woman』がリメイクされた『カドゥン』では、精神障害をもつ異父妹が異常な存在感をもって描き直されている。2018年に放送開始された『ヤサク・エルマ（禁断のリンゴ）』のように、変わらず上昇婚を取り扱ったドラマも存在するが、このドラマの中にも、子どもの頃に母親の不倫現場を目撃したトラウマから、女性への愛情不信に陥っている男性が登場する。2020年以前のドラマでは精神障害者が登場し、そのトラウマの原因には言及されるものの、それはあくまでもサブストーリーとして描かれていた。ところが2020年に放送開始された『赤い部屋』では、テーマそのものが精神障害であり、彼らが試練を乗り越え、障害を克服していく過程が描かれた点、これまでのドラマとは一線を画する。『フィー』（2017～2018）、『私の家の敵』（2018）、『イノセンス』（2021）はその前兆、あるいは同じ流れを汲むものといえる。いずれもサイコスリラードラマと分類され得るが、成長過程でトラウマ、精神障害を負った人物が終には犯罪にまで手を染めるといふ狂気が描かれており、『赤い部屋』につながる作品群と捉え得る。

2020年はコロナ禍が蔓延し、人々は不自由な生活を余儀なくされた。その状況下、トルコ

³³⁾ <https://news.yahoo.co.jp/byline/mizushimahiroaki/20140130-00032125/>

で精神障害をメインに取り扱ったドラマが登場し、いずれも視聴率ランキングの上位に入った。ドラマの中で、外界からの細菌、ウイルス等を家の中に持ち込まないと、帰宅するとまずは消毒液で手を清め、衣服に付着したウイルスに注意を払う姿、洗浄に躍起になる姿は、コロナ禍で、人々が情報に左右されながらも、自ら近い経験をしたのではなかろうか。『罪なき人々のアパート』でハーンが、UV除菌装置を姉に贈るが、コロナ禍の現在では同様の装置が美容院で導入されており、また密封された使い捨てタオルの使用、買い物時にはショッピングカートのハンドルをまずは備え付けの除菌剤で消毒するなど、いずれも奇異な事象ではなくなった。その意味で、この一連のドラマが、コロナ禍の2020年に放送開始され人気を博したのは、精神障害という、ある意味、隔絶された世界、ともすると偏見や差別意識により色眼鏡で見られがちであった世界が、自らの経験を通すことによって、平時よりも共感意識がより高まった可能性がある。まさにこの時期に、このドラマが放送された意味は大きい。

2004年に出版された著作が、ドラマ化されることにより、より人々に周知され、精神障害に苦しむ人々の問題が決して遠い他人事ではなく、子育て世代には自らの子どもとの接し方に目を向けさせるきっかけとなったと思われる。活字離れが進む中、お茶の間にまで問題意識を浸透させるという意味で、ドラマの担う役割は軽視できない。視聴者のコメントのひとつに、「自分たちの姿を映し出したり、自分自身に疑問を投げかけたり、自分を変えたり、今置かれている状況に感謝したりするものが必要」とあったが、ドラマの存在意義もそういったコンテンツにこそ見いだされるのではなかろうか。アメリカに次いで第二のドラマ輸出大国トルコのドラマ事情は、今後の世界のドラマの在り方にも影響を及ぼす可能性がある。

引用・参考文献

- 萩原浩史 (2011) 「テレビドラマにみる精神障害者像—「きちがい」から「心の病」へ」『生存学』(3), pp.133-143.
- Al-Sweel, Farah (2008). Turkish soap opera takes Arab world by storm. *Reuters* (July 26).
<http://www.reuters.com/article/entertainmentNews/idUSL633715120080726> (2021/08/28アクセス).
- Berg, Miriam (2017). The Importance of Cultural Proximity in the Success of Turkish Dramas. *International Journal of Communication*, 11, pp.3415-3430.
- Bolelli, Şenhan (2019). Türk dizileri İspanya'daki Latin Amerika dizilerinin hegemonyasını yıldı. *Anadolu Ajansı* (Nov. 24), <https://www.aa.com.tr/tr/kultur-sanat/turk-dizileri-ispanyadaki-latin-amerika-dizilerinin-hegemonyasini-yikti/1653912>
- Budayıcıoğlu, Gülseren (2004). *Madalyonun İçi*. Remzi Kitabevi.
- (2019). *Camdaki Kız*. Doğan Kitapçılık.
- Deniz, A. Çağlar (2010). Gümüş Dizisinin Arap Kamuoyuna Etkileri Bir Sosyal Medya İncelemesi. *Uşak Üniversitesi Sosyal Bilimler Dergisi*, 3(1), pp.50-67.
- Doğanay, M. Mete & Aktaş, M. Konuralp (2021). Türkiye'de Televizyon Dizisi Sektörü. *Marmara Üniversitesi Öneri Dergisi*, 16 (56), pp.852-878.

- Jaafar, Ali (2009). Arab net plans film of Turkish soap. *Variety* (Feb 11)', <https://variety.com/2009/film/news/arab-net-plans-film-of-turkish-soap-1118000057/> (2021/08/28アクセス).
- Jones, David (2013). Iran pins rise in divorce on steamy Turkish TV. *The Times*, <https://www.thetimes.co.uk/article/iran-pins-rise-in-divorce-on-steamy-turkish-tv-h7h89q3lfs1> (2021/08/28アクセス).
- Kızılay, M (2018) 「日土比較文化考 —人気ドラマの内容分析(1)—」『ニダバ』 (47), pp.79–89.
- Özmen, Seçkin & Al-Zaid, E. A. A. (2021). Ortadoğu’lu Kadınların Türk Dramlarını İzleme Deneyimleri ve Alımlamaları. Seçkin Özmen & Gizem Parlayandemir (Eds.) *Kültürel Çalışmalar Perspektifinden Toplumsal Cinsiyetin Alımlanması*, İstanbul: Kriter, p.8.
- Salamandra, Christa (2012). The Muhannad Effect: Media Panic, Melodrama, and the Arap Female Gaze. *Anthropological Quarterly* 85(1), pp.45–77.
- Salih, Yasemin (2020). Avrupa Türk dizilerine yöneldi. *Dünya Gazetesi*, <https://www.dunya.com/gundem/avrupa-turk-dizilerine-yoneldi-haberi-467853> (2021/08/28アクセス).
- Straubhaar, Joseph D. (1991). Beyond media imperialism: Assymetrical interdependence and cultural proximity. *Critical Studies in Media Communication*, 8(1), pp.39–59.
- Şentürk, Rıdvan, Gülçur, A. Sivas & Eken, İhsan (2017). *Türkiye’de Film Endüstrisi*. İstanbul: İstanbul Ticaret Odası & İstanbul Düşünce Akademisi.
- Torun, Fuat (2020). Psikiyatri penceresinden 'Bir Başkadır. *T24* (Nov.29), <https://t24.com.tr/yazarlar/fuat-torun/psikiyatri-penceresinden-bir-baskadir,28849> (2021/08/28アクセス).
- Yeşil, Bilge (2015). Transnationalization of Turkish dramas: Exploring the convergence of local and global market imperatives. *Global Media and Communication*, 11(1), pp.43–60.
- WHO (2004). *Prevention of mental disorders Effective interventions and policy options* (Report).
- Williams, Nathan (2013). The rise of Turkish soap power. *BBC News* (June 28), <https://www.bbc.com/news/magazine-22282563> (2021/08/28アクセス).